

★プロフィール★

昭和36年、三島中央生まれ。東京都在住。
三島小学校、三島西中学校、新居浜西高等学校卒業。
日本大学芸術学部在学中から映画活動及び演劇活動を開始。脚本、演出を手掛ける。卒業後、東宝演劇演出部入社。「屋根の上のヴァイオリン弾き」「頭痛肩こり樋口一葉」などの作品に携わる。昭和62年、自らの主宰する劇団疾風D0党(シップウドトウ)を結成、東宝を退社。演劇活動を続ける傍ら、学生時代に監督した16mm映画「CONTON」をリミックスして「獣人伝説」としてビデオ発売。昭和63年、コピーライターとして、ライオン子どもはみぎのラジオCM「うちのお母さん」で昭和63年ACC最優秀スポットCM賞(ラジオ部門)、民放祭優秀賞を受賞。平成3年、映画「就職戦線異状なし」でシナリオライターとしてデビュー。以後、「トリック2」「富豪刑事」「水戸黄門」「警部補矢部謙三」「仮面ライダーゴースト」など、映画・テレビ・ラジオ・舞台などを多数執筆。監督としても活動している。
第1回から書道パフォーマンス甲子園の審査員を務めるほか、11月9日(金)から公開される新居浜市を舞台にした映画「ふたつの昨日と僕の未来」の脚本を執筆。
日本大学芸術学部映画学科 非常勤講師



劇団 Dotoo! 主宰
脚本家・演出家

ふくだたくろう
福田卓郎 さん

(四国中央市ふるさとアドバイザー)

四国中央市(伊予三島市)での
思い出

ずっとここで育ったので、自分にとっては大切なところです。
東京での生活の方がもう長くありませんでしたが、すぐそばに山と海があり、それぞれに思い出がたくさんあって、そういう経験は実はなかなかできないことなんだなっていうのは、東京へ行って一番感じたことですね。

僕は西中だったんですけど、3年生になる時に他の学校と統合されて、今の場所に移転した新校舎に通うようになりました。当時はまだ運動場などが整備されていなかったたので、所属していたソフトテニス部は、元の学校のテニスコートで練習しました。テニスは割と強くて、3年生の県総体では団体戦で優勝し、四国大会に出場しました。当時のチームは、団体戦では公式戦で負けたのが確かその四国大会での1回だけなんです。それで、四国大会では優勝できなかったんですけど…。

故郷・四国中央市に対する思い

大学で東京に行って、それからもう何十年も経っているんですが、ふるさとアドバイザーや、第1回から書道パフォーマンスの審査員をやらせてもらうなど、市の方々と交流する機会が増えました。

市民ミュージカルの台本も書かせてもらいましたが、四国中央市でお芝居をしている人たちと関わられてとてもうれしかったですね。

書道パフォーマンスも毎年レベルがすごく上がっているの、審査がすごく難しいですが、高校生たちの真剣さに応えなきゃいけないので、僕たち審査員も真剣に審査しています。



第11回書道パフォーマンス甲子園で寸評を述べる福田さん [7/29(日)]

脚本や演出に興味を持ったきっかけ

小さい頃から映画がとても好きで、ゴジラとかモスラとかそういう作品ですけど、映画館に朝の1回目からお弁当を持って行って、その頃は入れ替えじゃないですから、夕方まで2回か3回ずつ見ていました。その時はまだ「やろう」という気はなかったんですけど、中学の頃から、何となくそういう関係に行けたらなあ、という思いを持ちました。

そして、テレビ局に入りたくて東京の私立大学ばかり受験したんですが、東京で1年浪人している時に、テレビ局に入ったからといってドラマを作る訳じゃないんだというのに気付いて、少し方向を変えたんです。大学時代から映像と舞台と両方やっていたので、東宝の演劇演出部に就職しました。

新居浜ふるさと映画の脚本を執筆

たまたま、高校時代を過ごした新居浜市で映画を撮るので脚本を書いてくれないか、という話があった。僕にとって高校3年間はすごく濃い時間で、一生の友達も何となく決めたし、自分の進路も何となくそこで決めたし、やっぱり青春時代を過ごしたまちなので、そのお役に立てるんだと思ったらぜひやりたいな、と思って参加しました。
新居浜で作った映画なので、別子や太鼓台が出てきたりするんですけど、どこの人が見ても共感してもらえないような話になっていないんじゃないかなと思っています。

映画や舞台の世界を目指す若者へ

夢を持って、本当にやりたかったら一生懸命やってほしいです。今は「地方に住んでいるから」という時代ではないと思いますし、方法はいくらでもあると思いますので、変に諦めずに頑張ってほしいなと思います。



福田さんが脚本を執筆し、全編新居浜市で撮影された映画「ふたつの昨日と僕の未来」は、11月9日(金)から、TOTOシネマズ新居浜などで愛媛県先行公開されます！